

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業		
事業名	小曽根真 & ゲイリー・パートン				
目的・内容	<p>[目的] 世界一流のジャズ・ミュージシャンによる演奏会を開催することで、ジャズという音楽ジャンルの素晴らしさを提供し、若年層及び男性鑑賞者の獲得とジャズ音楽ファンの裾野を広げる。また、倉吉未来中心大ホールの響きの豊かさを活かした、ジャズでありながらクラシカルな雰囲気のある演奏によって、ジャズ愛好者の拡大を図る。</p> <p>[内容] 世界最高の音楽賞グラミー賞7冠を誇る革新的なヴィブラフォン奏者のゲイリー・パートンと世界的ジャズピアニスト小曽根真のデュオ・コンサート。 [アフター事業]『みらいアトリウム劇場 vol.10 ジャズコンサート 松本 茜 & 浜崎 航 平成26年8月4日(日) / 会場: 倉吉未来中心リハーサル室 内容: スタンダードから数曲、本公演出演の小曽根氏とゆかりのある1曲など解説やエピソードを交えて全10曲を披露。 来場者: 72人</p>				
開催日時	平成26年6月14日(金) 開演19:00				
会場	倉吉未来中心 大ホール				
入場料 (友の会)	S席 6,500円 (5,500円)	A席 5,000円 (4,500円)	with シート(学生) 1,000円	with シート(一般) 3,000円	
集客状況	入場者数	742名	設定席数	1,219席	集客率 61%
事業費状況	予算額	収入 3,997,000円	支出 4,419,000円	収支比率	95%
	決算額	収入 3,452,855円	支出 3,876,809円	収支比率	89%
来場者アンケート (主なもの) 回答者数 448名	<p>回収率39%、満足度85%、新規顧客獲得率42%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まさか小曽根 & ゲイリー・パートンのデュオが山陰で聴けるとは最高!!世界のトップレベルの音を身体中にあびて幸せです!!(50歳代・男性) ・何の前知識もなく、聴きたい!と思ってきましたが、大成功!呼吸、ステップ、思わず体が反応します。まさにハートで聴いている感じでした。あらゆるジャンルに通じ、とても楽しめました。「ソロ・アステカ」は二人の会話と心情が伝わってくるようでした。(40歳代・女性) ・初めて体験する生の演奏に興奮を覚えました。普段聴くことのないジャズというジャンルではあるのですが、これを期に聴いてみようと思います。(30歳代・男性) ・こんなにも豊かにジャズという音楽が表現されるとは…初めて知りました。小曽根さんはブルーノートで2度聴いています。今日のヴィブラフォンとの共演が一番心に響きました。ありがとうございました。(60歳代・女性) ・素晴らしかったです!とてもアットホーム、身近な雰囲気の中で高級、本物、素晴らしい演奏でした!大々々満足です♡(20歳代・女性) ・手の動きが早く、ピアノとヴィブラフォンの音色に感動しました。(10歳代・女性) 				
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「倉吉でふたりのデュオが聴けるなんて最高」などの感想もあり、ホールの特性を活かし、世界的なアーティストの生音による質の高い演奏を提供することができた。 ・新規鑑賞者は42%と非常に多く獲得することができ、「これを期にジャズを聴いてみたい」という感想がみられ、鑑賞者の拡大とレベルアップにつながった。男性鑑賞者が42%であり、さらにWithシートを設定したこともあり30歳代以下が39%と、多くの若年層に鑑賞機会を提供することができた。 ・アフター事業は、本公演鑑賞者を対象とした事業ではあるにもかかわらず、本公演を鑑賞していない方(64%)やジャズの新規鑑賞者(31%)も多くみられた。 ・これまでの取り組みに加え、図書館との協働・より鑑賞しやすいwithシートの設定など新たな取り組みを試みている。数字的においてもその効果があり、今後の展開についても検証し継続を検討することが必要。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャズの活動者の多い米子市へも集中して広報販促を行ったが、平日の夜公演であることも理由に米子市からの来場は13%にとどまった。鳥取市の来場者にも帰りの駅までのバスがないことを指摘され、今後、平日の夜公演の場合は、臨時バスの手配等を検討する必要がある。 ・アフター事業は、本公演とは雰囲気の違うデュオを楽しんでいただく内容とし、好評であったが、継続的で横断的な鑑賞者へ導くための仕掛けがさらに必要。 				
2次評価 (財団評議員)	<p>[量的成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界的なアーティストでコアなファンがいるといってもジャズという演目にしては65%という入場者率目標の設定基準は高いかと思われましたが、図書館との連携、販促努力の結果61%の実績となっており、集客目標を達成されたのではないかと評価できます。 <p>[質的成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャズという演目であっても、地道なPRが奏功すれば集客につながる事が証明されました。出演者のパフォーマンスだけでなく、観客とのかけあい(今回、客席の菊池ひみこさんとのやりとりがありました)も、出演者と観客を親密な気分にする「演出」として機能したのではないのでしょうか。そうしたことが高い満足度にもつながっている気がします。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場内での誘導、案内役の方が適切に配置されていて、ジャズにふさわしい出で立ちで好感がもてました。今回第2部のイベントには参加できませんでしたが、県内アーティストとの連携事業がもっと盛り上がれば良いと思います。 				
今後の対応、取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・コアなファンと一般的なファンの動き、開催地以外(主に東部地区および県外)での反応などから、ジャズの顧客の動きを予想するための参考となりうる実態が感じとれた。「鳥取ジャズ」の動きを含む鳥取県東部地域への継続的な情報提供等の連携は効果を感じている。 ・大学生を含む学生を対象とする割引を今後も設定していくなど、中間的ファンがよりアクセスしやすい戦略は継続し、新しいアイデアを膨らませていきたい。 				